

会報

第52号

いまだ青春

編集発行

公益社団法人
萩広域シルバー
人材センター

～生きがいと地域のニーズを結びます～



「萩陶会」会員作



	監						理	理
	事	事	事	事	事	事	事	事
職	松	藤	吉	堀	藤	長	長	中
員	原	村	屋	永	田	谷	岡	村
一	宏	季	哲	孝	和	義	繁	隆
同	征	志	夫	春	子	明	雄	次
								雄

平成三十年 元旦



新年のご挨拶



萩市長
藤道 健二

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年の三月に実施されました萩市長選挙により、市民の皆様からの信頼を受け、萩市長に就任し、市長として初めての新年を迎えました。

この十ヶ月の間、各地域の様々な行事に参加し、市民や関係団体の皆様から多くのご意見を聞かせていただきました。私の市政運営の中心には、いつも市民の皆様がいます。常に、「市民ファースト」を念頭に置き、「暮らし満足度ナンバーワン」を目指し、「すべての市民の目が輝くまちづくり」に全力を尽くしてまいります。

さて、国内景気は緩やかな回復基調が続いているものの、萩市においては、少子高齢化や若者流出に伴う集落や地域の活力低下をはじめ、後継者等の担い手不足や労働力不足による競争力低下が続くなど、地域を取り巻く環境は依然厳しいものがあります。

萩で生まれた若者が萩で働く、また、多くの人に萩に移り住んでもらうには、産業再生によ

る雇用の拡大が必要不可欠です。そして、子育て支援や教育施策を充実させ、若い世代に魅力を感じてもらい、定住へつなげ、地域のコミュニティが元気になる好循環のサイクルが必要です。

そのため、「人材の育成」、「産業振興」、「元気なコミュニティの再生」の三つを柱として、「住みよいまち・萩」、「住みたくなるまち・萩」の実現に向けて、国や県などの関係機関との連携を強化し、皆様のご理解とご協力を賜り、各種施策を展開してまいります。

会員の皆様におかれましては、就業を通じて高齢者の健康維持や高齢者の社会参加に大いに寄与されるとともに、地域の活性化に貢献されています。誰もが意欲をもち、適材適所で能力を発揮するためには、会員の皆様の豊富な知識と経験の果たす役割が、地域社会に対して今後より一層重要なものとなると考えております。

昨年は、萩の新たな観光拠点として「萩・明倫学舎」がオープンし、ジオパーク構想や世界遺産等の情報を発信いたしました。そして、今年には、「明治維新150年」の節目の年でもあり、「明治維新150年」と銘打ち、日本人として初めて英国に密航留学した「長州ファイブ」の志とチャレンジ精神に着目し、次代を担う人づくりに向けて、未来につながる記念事業に取り組みまいりますので、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

貴センターの益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸、更なるご活躍をお祈り申し上げ、新春のご挨拶といたします。



理事長
中村 敏雄

皆様には穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、シルバー人材センターの歴史を振り返りますと、その歴史はシルバー人材センターが法制化される前までさかのぼることになり、昭和五十年（一九七五年）に東京都で「高齢者事業団」が設立されたことに始まります。

この「高齢者事業団」の設立を契機として、「自主・自立、共働・共助」の理念のもとに「一般雇用にはなじまないが、高齢者が持つ豊かな経験、知識、技能、技術等を生かしつつ、働くことを通じて社会に貢献し、生きがいを得ていく機会を確保すること」を目的として、その後全国の市町村に広まり、その結果、昭和六十一年に「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の中に盛り込まれ、シルバー人材センターが法制化されることになりました。

そのシルバー人材センターの前身である「高齢者事業団」の生みの親であり、シルバー人材センター事業の理念提唱者でもある大河内一男氏（元東京大学総長、昭和五十九年没）は、こんな言葉を遺されています。

「喜寿不足祝傘賀未青春」「喜寿（七十七歳）祝うに足らず、傘賀（八十歳）いまだ青春」。

萩広域シルバー人材センターの現在の会報誌「いまだ青春」は、この大河内一男氏の言葉から引用したもので、平成三年にそれまでの会報誌「いきいき」から題名を変更したものであります。



阿武町長
花田 憲彦

明けましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、会員の皆様には「自主・自立、協働・共助」の理念の下、地域社会の活性化に貢献されておられることに対し、敬意と感謝を申し上げますとともに、私も行政の数々の業務につきましても多大なご支援・ご協力をいただいております。ここに、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨今の「アベノミクス景気」は、一九九〇年前後のバブル経済期を抜き、戦後三番目の長さとなりましたが、過去の回復局面と比べると内外需の伸びは弱く、雇用環境は良くても賃金の伸びは限られるなど、この北浦地域においては、まだまだ実感に乏しい現状にあります。

また、日本の人口は二〇〇八年をピークに減少局面に転じたと言われておりますが、人手不足は地方に限らず都市部においても深刻な問題となつてきております。阿武町においては、二〇一七年三月末現在の人口は三、四六八人ですが、二十三年後の二〇四〇年には約半分の一、七〇〇人前後まで減少すると推計されているところであります。

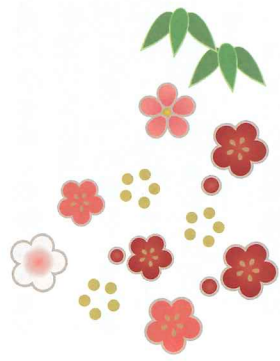
このような中、阿武町においては、人口が減

少しても地域が豊かで、地域経済が衰退していないような「縮充」の意識を持った参加型の町づくりを推進していくことが必要と感じているところであり、阿武町版総合戦略の「選ばれる町をつくる」を推進していくためにも、あらゆる努力を集結していかなければならないと考えているところであります。

なお、貴団体におかれましては、企業の定年延長などの要因により、会員不足が懸念されている中、当町におきましては建物管理業務をはじめ、コミュニティワゴン運転業務、園児送迎業務、清掃管理業務などをはじめとした多くの業務におきましてご貢献をいただいているところであり、会員の皆様のご活躍が地域にとってなくてはならない存在となっております。

今後、地域社会において、高齢者の役割は益々重要になって参ります。皆様の卓越した技術と豊かな経験が、地域に更に活かされること、また、地域の活性化につながることを切に願っております。

終わりに、萩広域シルバー人材センターの益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝で一層のご活躍されることを心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



皆様には穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、シルバー人材センターの歴史を振り返りますと、その歴史はシルバー人材センターが法制化される前までさかのぼることになり、昭和五十年（一九七五年）に東京都で「高齢者事業団」が設立されたことに始まります。

この「高齢者事業団」の設立を契機として、「自主・自立、共働・共助」の理念のもとに「一般雇用にはなじまないが、高齢者が持つ豊かな経験、知識、技能、技術等を生かしつつ、働くことを通じて社会に貢献し、生きがいを得ていく機会を確保すること」を目的として、その後全国の市町村に広まり、その結果、昭和六十一年に「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の中に盛り込まれ、シルバー人材センターが法制化されることになりました。

そのシルバー人材センターの前身である「高齢者事業団」の生みの親であり、シルバー人材センター事業の理念提唱者でもある大河内一男氏（元東京大学総長、昭和五十九年没）は、こんな言葉を遺されています。

「喜寿不足祝傘賀未青春」「喜寿（七十七歳）祝うに足らず、傘賀（八十歳）いまだ青春」。

萩広域シルバー人材センターの現在の会報誌「いまだ青春」は、この大河内一男氏の言葉から引用したもので、平成三年にそれまでの会報誌「いきいき」から題名を変更したものであります。

ついでにはややもすると医療や福祉という面から捉えられ「労働」とは無縁に近かったものを、「生きがいのために働く」というこれまで眠りかけていた概念を呼び覚ました大河内一男氏の功績は今日では高く評価されているところです。

西欧諸国では、「働く」という営みがどうも「苦痛」であると理解されているようで、人を働かせることはその人に苦痛を転嫁することになるから、その代償として賃金を支払うのが社会のルールになっていると聞きます。

一方、日本の場合は、「働く」という営みは、何人にとっても当然なこと、あるいは生きがいであるという考え方が古くから存在しているようで、多くの高齢者が今日そう考えているのは、我が国独特の国民性に由来するものとされています。

超高齢社会を迎えた現在、高齢者が「社会を支える側」から「社会を支える側」に立ち位置を変えていくことが、社会にとっても高齢者自身にとっても望ましい姿であると言われはじめました。

どうか、そういう意味でも会員の皆様にはこれからも一日でも長く会員として在籍され、働くことにより元気な毎日を過ごしていただければと願っているところです。

当センターとしても会員の皆様に対しそのお手伝いをさせていただき、そのことを通じ今後とも微力ながら地域社会に貢献してまいりたいと考えています。

終わりにあたり、本年戊戌が事故のない平穏な一年になりますよう、また会員の皆様そしてご家族の皆様にとりまして最良の年となりますようお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

会員募集

「会員一人一会員獲得運動」の更なる推進を！

シルバー人材センターが地域社会の様々なニーズに定えて役割を發揮し、シルバー事業の維持・発展を図っていくためには、会員の増強は不可欠であり、喫緊の課題であることから、今年度の事業計画において「会員の増強」を「就業機会の開拓・拡大」とともに、最重要課題に掲げ、現在、鋭意、目標達成に向け事業運営に取り組んでいるところです。

(一) 平成二十九年度の会員増強の取り組み

センターとしては、本年四月以降、今日までの間、従来からの萩市報に加えて阿武町報へも会員募集記事を掲載「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間（十月）」や十一月に地域で開催の「ふるさとまつり」等の際の地域住民への普及啓発・会員募集のチラシ配布、萩事務所における月一回の定期的な入会説明会の実施のほか、今年度の新たな試みとして、萩広域・美祢市・長門市の三シルバー人材センターの合同企画により求人情報誌「ひ・と・ま・ち あびる」に会員募集広告を掲載し、十月七日付けの読売・毎日・朝日・中国の四紙に新聞折込を実施するとともに、当センター主催のセミナー（「今を美しく輝いて生きたい貴女のための美健セミナー」）や、山口県シルバー人材センター連合会が高齢者活躍人材育成事業とし

て萩・須佐・田万川の各地域で開催する講習会（「シニアいきいき生活支援講習」）、「プロから学ぶ剪定基礎（入門）講習」の場で、受講者にシルバー人材センターへの入会案内を行いました（「プロから学ぶ剪定基礎（入門）講習」は今後、一月・二月に開催）。

このほか、五月に開催した定時総会において定款の改正を行い、本来、新規会員の入会の承認は理事会で行われるものですが、これに加えて緊急を要する時は理事長の専決処分により入会を承認することができるよう見直しを行い、入会手続きの促進を図りました。

また、これらの取り組みとは別に、本年二月に各地域で開催の「適正就業等に関する研修会」において、センターから「会員一人一会員獲得運動」を提唱するとともに、ご出席の会員の方々に会員拡大についてのご協力をお願いし、以降、会員の皆さんにおかれましても、周囲のご友人、お知り合いの方々に、シルバーの会員になっていただくよう入会のお声掛けに取り組んでいただいています。

(二) 「会員一人一会員獲得運動」の継続的な取り組みについて

本年四月以降の会員数の状況については資料1・資料2に記載の通りです。十一月末現在の会員数は四八〇人で、平成二十九年三月末の会員数四八〇人と同数となっており、現状では平成三十年三月末の会員数が、平成二十九年三月末と比較して増加に転じるかどうか状況は混沌としており、予断を許さない状況となっています。

また、依然として会員不足により、長期にお待たせをしているケースがあり、これらに対応していくためには、なお一層の更なる会員増が必要で、つきましては、会員の皆様にはご多忙の折、大変お手数をおかけしますが、会員さんお一人一人のお力をお借りしなければ、会員の増員を図ることは困難です。センターといたしましては、今後も引き続き、会員の皆さんと一緒に力を合わせ二人三脚で、一体となって会員増を図っていきたく思いますので、今後とも「会員一人一会員獲得運動」について、ご協力を宜しくお願いいたします。

(資料1) 平成29年度の会員の入会・退会・月末会員数の状況(4月~11月)

	(参考) 29年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
入会者数	1	16	4	4	1	3	5	6	5	44
退会者数	1	17	25	0	0	1	0	0	1	44
月末会員数	480	479	458	462	463	480	465	476	480	増減なし

(資料2)

平成29年度の事務所別の会員数の状況(4月~11月)

	(参考) 29年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	3月末からの増減数
萩事務所	279	275	271	275	276	277	280	283	285	6
阿武出張所	57	60	52	52	52	52	52	52	52	△5
むつみ出張所	40	40	35	35	35	35	35	35	35	△5
須佐出張所	57	54	54	54	54	55	55	55	55	△2
田万川出張所	47	50	46	46	46	46	48	51	53	6
合計	480	479	458	462	463	465	470	476	480	増減なし

※数値は各月末の会員数

シニアいきいき生活支援 (調理・掃除)講習会を開催しました

今年度の新たな取組みとして、私どもシルバー人材センターの上部団体である(公社)山口県シルバー人材センター連合会が高齢者活躍人材育成事業として実施する講習会を当センターの圏域で開催するよう要望し、去る十月二十三日・三十日の両日、萩市須佐保健センターにおいて、十一月二十日には萩市須佐保健センターにおいて、会員を含む萩市又は阿武町に在住の六十歳以上の方を対象に、管理栄養士の三浦康代さん、テルウェル西日本山口営業所社員でビルクリーニング技能士、清掃作業従事者研修指導者、清掃作業監督者の島田眞佐子、前田美代子さんを講師にお招きし、「シニアいきいき生活支援(調理・掃除)講習」として、バランスのとれた食事や掃除のコツについて実習を交えた講習会が開催されました。

高齢者活躍人材育成事業とは、労働力人口減少等により、人手不足分野や、育児・介護等の現役世代を支える分野において高齢者の皆さんに活躍していただくことが重要となっております。このような分野において、高齢者の方がシルバー人材センター会員としてスムーズに就業していただけるよう、シルバー人材センターでの就業を希望する六十歳以上の方やシルバー人材センター会員を対象に、就業に際して必要な知識及び技能を身に付けていただくための技能講習の実施を内容とするもので、受講料は無料で、萩会場は十三人、須佐会場では九人の方々が受

講されました。参加された受講者の皆さんは講師の一言一句に聞き入り、時には和気あいあいと楽しく会話もされながら、熱心に受講されていました。



萩会場



須佐会場

いきいき楽しくそして美しく「今を美しく輝いて生きたい貴女のための美健セミナー」を開催しました

女性会員の増強を図るため福祉・家事援助講習会の一環として十月二十八日萩市須佐保健センターと十一月二十九日サンライフ萩において、オアシス萩園管理者宮路聡子氏を講師として「認知症予防講座・健康レクササイズ」と資生堂美容部橋本奈美江氏を講師として「大人きれいセミナー」を開催し、須佐地区、萩地区両会場合わせて三十四名が受講しました。

前半は認知症は今や誰でもなるものと受け止め、いかに予防していくか食習慣や睡眠習慣の見直し、運動習慣やコミュニケーションの大切さの講話後、音楽に合わせて脳と身体を動かしてリフレッシュしました。つづいて後半は、第一印象の大切な部分を占める身だしなみとしての化粧について、実際にメイクアップの仕方をプロの手ほどきのもと実習し、仕上げは皆上々、メイクアップののりもよく一段と別嬪座を楽しく熱心に受講しました。



「プロから学ぶ 剪定基礎(入門)講習」 開催のお知らせ

高齢者活躍人材育成事業の一環として、シルバー会員を含む萩市または阿武町に在住の六十歳以上の方を対象に、(公社)山口県シルバー人材センター連合会による「プロから学ぶ剪定基礎(入門)講習」が、次のとおり開催されます。剪定にご興味のある方、庭木を切ってみたい方、剪定の基礎(入門編)についてプロから一緒に学びませんか？

	萩会場	田万川会場
と き	1月23日(火)・24日(水) 午前9時30分～午後4時 (小雨決行)	2月26日(月)・27日(火) 午前9時30分～午後4時 (小雨決行)
と ころ	萩浄化センター	萩市田万川コミュニティセンター
内 容	剪の持ち方、木の切り方等を座学と実習で学びます	
講 師	(有)廣兼造園 代表取締役 廣兼 聡(一級造園施工管理技士)	
定 員	いずれの会場も10人	
受講料・テキスト代	無 料	
服 装	作業のできる服装・運動靴・雨天の場合の雨具 (お持ちの方はヘルメット)	
持 参 品	手袋、タオル、昼食、飲み物、お手持ちの剪定用の 鋏があればお持ちください	
申込締切	1月16日(火)	2月14日(水) ※募集は2月1日(木)から
申込方法	(公社)山口県シルバー人材センター連合会 (☎083-921-6070)へ直接、ご連絡ください	

会員親睦旅行に行ってきました



会員親睦会では毎年会員の親睦を図ることを目的に会員親睦旅行を行っています。平成二十九年も九月二十六日から二十七日まで一泊二日で岡山県美作方面に行ってきました。二十六日、早朝にもかかわらず皆さん元気に集合。楽しい旅が始まりました。初日は、途中、日本三大稲荷である最上稲荷山妙教寺、神庭の滝を見学し、山田養蜂場みつばち農園ではお兄さんのユーモアあふれる説明に乗せられ若さを取り戻そうとハチミツを買い求めました。宿は湯郷温泉。温泉で旅の疲れを癒した後は恒例となっている夕食時のカラオケ大会。旅の恥はかき捨て?と我も我もとマイクの奪い合い。皆さん歌の上手いこと。すぐにもデビューできそうな会員ばかりでした。二日目はまずお茶の小林芳香園で昨夜の酔いを覚ますべくお茶を堪能し、津山まなびの鉄道館で現存する扇型機関車庫の中で二番目の規模をほこる旧津山扇型機関車庫を見学した後、津山市の町並み保存地区を散策しました。

帰りのバスの中ではこれも恒例となったビンゴ大会。どんな景品が当たるかワクワクしながら一喜一憂の緊迫したひとときでした。参加者は和気あいあいと旅行の楽しさを味わい、親睦を深めることができました。来年以降も続けたいと思いますので、ぜひご参加ください。のしゅうよお!

普及啓発・入会勧誘活動

「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間(十月)」中の取組みの一環として、シルバー事業の意義、事業活動等を広く地域住民に周知し、シルバー事業への理解・協力を求めるとともに、高齢者のシルバー人材センターへの入会促進を図るため、去る十月七日、市内の大型店舗の店頭において、萩地域の役員の方々のご協力を得て、チラシ配布等の普及啓発活動を実施しました。当日は若干の小雨模様でしたが、配布に際しては時折、センターが引き受ける仕事の内容や入会に関するご相談をいただき、あらかじめ用意しておいた配布物(四〇〇セット)は一時間足らずで配布が終わりました。



適正就業にご理解を!

公益社団法人では、これまでに適正就業についての取り組みが求められています。就業日数・就業時間・継続長期就業について、是正や調整を図ってまいりますので、会員の皆様のご理解をお願いします。

また、希望職種の変更や就業可能な仕事等のある方は申し出てください。適性を考慮の上、今後の就業の提供に反映したいと思っております。

継続就業の交替の申し出は早めにご連絡をください。毎年、何人かの会員さんが年度末に突然事務所に来られて、交替の申し出がありますが、急には手配もできないだけでなく、発注者にもご迷惑をおかけいたしますので、その旨よろしく願います。



安全委員会だより

安全巡回パトロールを七月二十七日に実施しました。中村安全委員長、堀永安全副委員長、中野事務局次長の三名で、萩地域の公共用地の草刈、須佐地域の公園の草刈、田万川地域の市道の草刈、むつみ地域の公共用地の草刈、民家の剪定の五か所の就業現場を巡回し、事故防止対策の状況確認を行いました。

九月十九日には県連合会の安全パトロールが実施され、県連合会と長門市シルバー人材センターの安全委員と一緒に萩広域シルバー人材センターから安全委員四名と職員三名が参加し、萩地域の民家の剪定現場と公共用地の草刈現場の巡回を行いました。

残念ながら今年度も多くの事故が発生しており、今年度十一月末現在の事故件数は五件です。

特に、賠償事故はセンターの信用を損なう原因となります。注意すれば防げる事故ばかりです。

さらなる安全意識を持って就業してください。

安全就業は、シルバー人材センターにとつて最も重要なことです。

就業中の事故状況

地区	発生日	就業内容	損害・障害状況
須佐	29. 4. 25	草刈	普通車窓ガラス破損
萩	29. 5. 18	草刈	外灯カバー破損
萩	29. 5. 22	剪定	ケーブル線一部切断
須佐	29. 10. 24	草刈	普通車後部ガラス破損
萩	29. 11. 3	剪定	窓ガラス破損

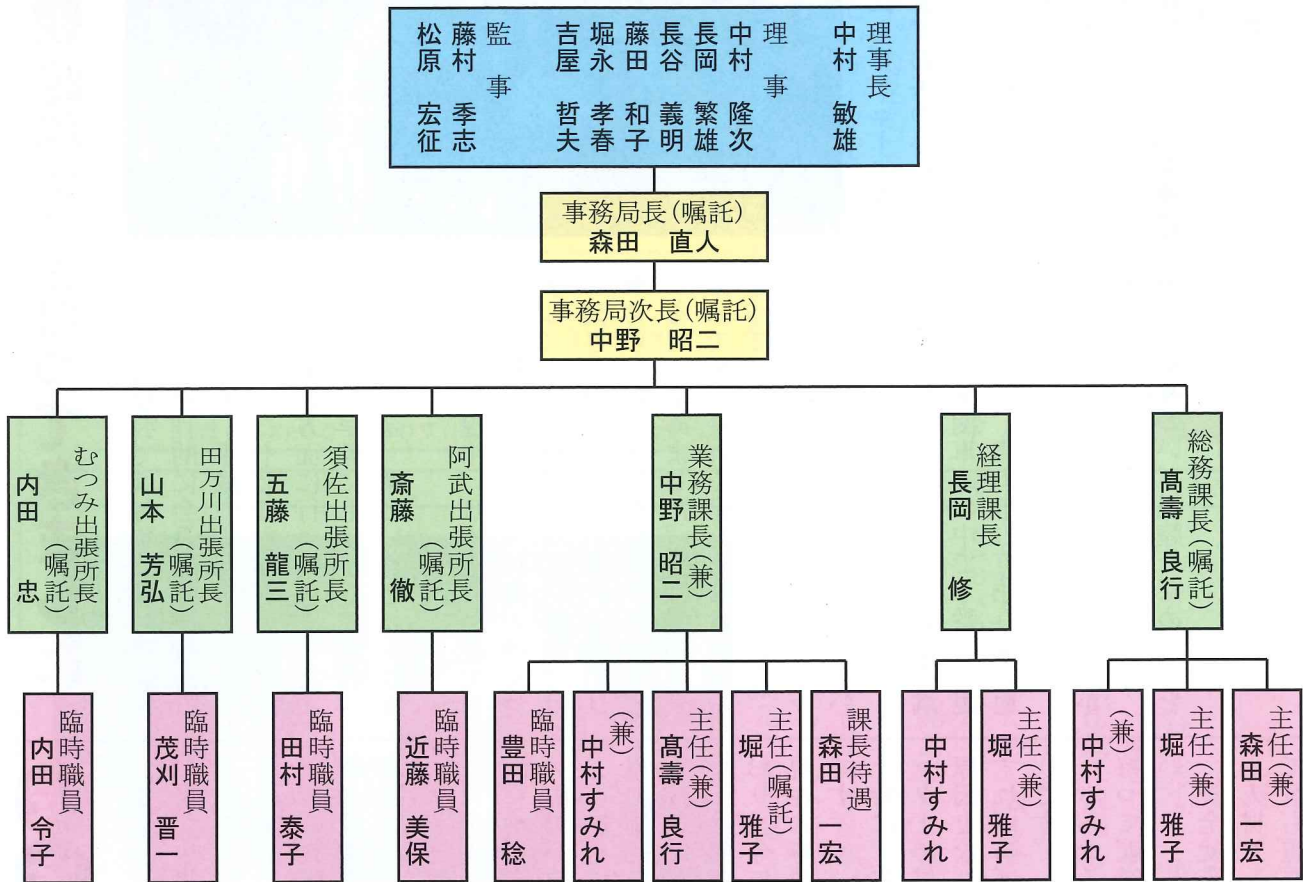
事故緊急時の連絡 シルバー人材センター 休日及び時間外 緊急連絡先

- (萩) ☎090-7974-5503
- (阿武) ☎080-5628-9530
- (むつみ) ☎080-5628-9535
- (須佐) ☎080-5611-9328
- (田万川) ☎080-5611-9334



公益社団法人萩広域シルバー人材センター機構図

平成30年1月1日現在



健康管理について

普段の食事や適度の運動を通して、日々の健康管理に努めましょう。

健康診断等については、自治体による補助制度もあり、市町の広報誌等を通じ案内され、診断結果等は保管し、発注者から求められた時は説明できるように心がけてください。

また、個人で医療機関を受診された際の診断結果も役立ちますので、保管をお願いします。

特に、派遣として就業されている会員さんは、派遣元である山口県シルバー人材センター連合会から、健康管理について、お尋ねされる場合がありますのでよろしくお願いたします。

配分金所得と確定申告について

シルバー人材センターで得た「配分金収入」は所得税法上「雑所得」に区分され、六十五万円まで控除されます。一月下旬に「配分金支払証明書」を用意しますので、確定申告が必要な方は、各自で手続きをしてください。

平成30年 配分金支払日

- 1月25日(木) 2月23日(金)
- 3月23日(金) 4月25日(水)
- 5月25日(金) 6月25日(月)
- 7月25日(水) 8月24日(金)
- 9月25日(火) 10月25日(木)
- 11月22日(木) 12月25日(火)



広報委員会 構成員

- | | |
|-----|-------|
| 委員長 | 長岡 繁雄 |
| 委員 | 長谷 義明 |
| 委員 | 豊田 義滋 |
| 委員 | 西村 弘義 |
| 委員 | 森田 直人 |
| 委員 | 高寿 良行 |